ブリストルにおける商工業の地域的展開

——ブリストル執事管区の検認遺産目録を用いて——

岡　部　芳　彦

要　約

本稿の目的は，1542年から1804年にかけてのブリストル執事管区におけるすべての検認遺産目録を概観し，消費の実態を分析する起点として，教区別・職業別に整理し，商工業の地域的展開を見ることである。また，これまでの検認遺産目録を使用した研究を継承しつつ，新しい分析手法を試みた。

イギリス社会経済史研究において，とくに16世紀から18世紀を研究する場合，史料としての検認遺産目録への関心は非常に高い。また，地方レベルでの遺産目録の整理が史料協会（Record society）とアーキビストによって精力的にすすめられ，この20年間に多くの遺産目録集が出版されている。本稿では，ブリストル司教管区（Diocese）内ブリストル大執事（副司教）管区（Archdeaconry）におけるブリストル執事管区（Deanery）の教区（Parish）・地区（Ward）・地域（Area）の全遺産目録7169例のインデックスを用いた。

ブリストル市公文書館に残る執事管区の全遺産目録7169例の分析から，まず年度別の残存数の傾向は，同じく検認記録である遺言書や会計簿と異なっていたことがわかった。職業分類からは，ブリストル地域内で細分化された社会的分業が広く行われていたことがわかった。業種別の検討の結果，各業種の地域的な展開は扱われた商品の特徴に基づく一方，例えば船舶・海運関係に必要な複数の関連業種が近隣教区に集中することによって，商品の流通経路における高いシナジー効果を発揮したと考えられる。

また船大工のように，一地区・地域に集中したほうが効率が良さそうな業種が市街・郊外の教区に分散している場合が見られた。ここからはブリスト

＊本稿を作成するにあたり，ブリストル大学シニア・リサーチ・フェローのジョン・ムーア氏に多くのご助言をいただいた。また大阪大学名誉教授佐村明知先生には貴重なご指導を長年にわたりいただいた。この場に記して感謝の意を表したい。

ル海峡から市街までの距離といった地理的条件から，市街より利便性の高い教区において造船・船舶修理が盛んに行われていたことが窺える。

1 はじめに

本稿の目的は，1542年から1804年にかけてのブリストル執事管区におけるすべての検認遺産目録を概観し，消費の実態を分析する起点として，教区別・職業別に整理し，商工業の地域的展開を見ることである。

イギリス社会経済史研究において，とくに16世紀から18世紀を研究する場合，史料としての検認遺産目録への関心は高い。動産のリストである遺産目録には家財に関する具体名や価値が記載されているため，それを分析すれば生活様式や消費生活の変化を解明できるのではないかと考えられてきた。職業区分や遺産の総額が記載されているので，ミドリング・ソートの役割やグレゴリ・キング以来のイギリスの経済社会構造の実態解明の可能性も指摘されている。これまで，L・ウェザリル[(1)]やM・オバートンらの研究のように，17世紀後半から18世紀にかけての遺産目録を用いた特定品目の出現率の分析が盛んに行われてきた。しかし，遺産目録作成の過程といった実態が詳しく分析されなかったため，多くのサンプル数を扱う以外の方法で説得力をもった研究はあまり見られない。また，検認遺産目録が使用される場合，その史料としての信頼性に疑問を呈されることも多く，各地域の遺産目録が分析された内容にまで踏み込まぬまま議論が終わることも少なくない。例えば，M・スパフォドは，遺漏の可能性や総数の未確定，また正確性への疑問などから遺産目録は史料として耐えうるのかという問題提起をおこなっている[(2)]。ただ，査定方法という観点から見れば，その内容の正確性はそれほど低くないという見方も可能である[(3)]。

---

(1) Weatherill, L (1996), *Consumer Behaviour & Material Culture in Britain 1660-1760,* Rotledge.

(2) Spufford, M (1990), 'The Limitations of the Probate Inventory', in J. Chartres ed., *English rural society, 1500-1800: essays in honour of Joan Thirsk,* Cambridge University Press, pp. 139-174.

それらの史料批判や最近の研究動向を踏まえて，遺産目録を使用した新しい研究手法も登場している。例えば，P・ボウェンは，カーディフ一帯で，商人の遺産目録を抽出し，店舗と在庫に注目して内容の分析を行っている。(4) 商店を持っていた者の遺産目録には，店舗（shop）の査定が行われているものが多い。店舗にあった商品在庫は，それが商品である性格上，日常生活用品に比べて価格が正確に査定された，あるいは出来た可能性が高い。N・コックスを中心とするウォルバーハンプトン大学の「商品と日用品の辞書（1550年～1820年）」プロジェクトにおいては，1228例の商人の検認遺産目録が使用された。それにより，N・マケンドリック，M・バーグらによって盛んに研究されてきた18世紀消費革命までの間の，消費者と購買の場所との関係，また商人の活動の実態の解明を試みている。コックスを中心とする研究グループは，史料として1328～1800年間の553の制定法，1617～1800年間の501の特許，1582・1660・1784年の地方税台帳，1706～1790年間の1545の地方新聞に掲載された広告，1685～1825年間の495のトレーディング・カード，1584～1790年間の1526の日記と個人文書，1650～1800年間の207の調理法のレシピ，1682～1702年間の275のJohn Houghton の営業管理書簡を調査した。それらの中で，主に西ミッドランド，北ミッドランド，ロンドン，サセックスを中心に収集された商人の検認遺産目録は，もっとも重要な史料の一つに位置付けられている。(5) コックスの研究グループの研究対象は，消費と小売業の関係史で，研究時期は15世紀から現代まで，地域もイギリスだけではなく，日本が含まれるなど多岐に渡る。しかし，17世紀から18世紀にかけての商人活動については，消費者がどこで買物ができるようになったかの重要性を説きながらも，その具体的・空間的な検討はあま

（3） 岡部芳彦「イギリス検認遺産目録の法的背景と査定方法」『大阪大学経済学』，第59巻，第3号，2009年.

（4） Bowen, P (2004), *Shopkeepers and Tradesmen in Cardiff and The Vale 1633-1857*, Bowen.

（5） Cox, N (2000), *The Complete Tradesman: A Study of Retailing, 1550-1820*, Ashgate.

り行われていない。

一方，地方レベルでの検認遺産目録の整理は史料協会（Record society）とアーキビストによって精力的にすすめられている。特に原本を活字化する作業がこの20年あまりの間に盛んにおこなわれ，多くの遺産目録集が出版されている。近年これらの刊行史料を使用し，多くの研究が行われるようになった。しかし，遺産目録集の編纂は地域によって差異があり，遺産目録の作成目的や地域的な特徴を十分に吟味しないまま，利用される場合もある。J・ムーアによれば，検認遺産目録を史料として有効に用いる基準の一つは，連続した良好な残存状況である。(6) その基準に照らせば，各地の遺産目録集の中で年代が長期間連続しているものの一つが，ブリストル公文書館（Bristol Record Office，以下 BRO）に残された検認遺産目録群である。

史料の残存にくわえ，ブリストルを研究対象とする理由は，その都市の持つ特徴と背景が挙げられる。18世紀を通じて貿易港としての地位はリヴァプールに取って代わられたが，人口は1700年の約20,000人から1801年には68,000人へと増加し都市化と経済成長が見られた。(7) 西インド貿易，奴隷貿易を通じて，様々な商品の交易が盛んに行われた都市・地域であり，商工業の地域的展開や消費の増大を分析する対象として適すると考えられる。また，今後イギリスの他都市の遺産目録を用いた商工業の分析を続けて行う際の比較する一事例としても有用であると思われる。

ブリストルの検認遺産目録については，E・ジョージとS・ジョージが編纂したブリストル市街教区の遺産目録集（1542年～1804年）がある。(8) これはブリ

（6） Moore, J. S (1985), 'Probate Inventories: Problems and Prospects', in P. Riden. ed (1985), *Probate Records and the Local Community,* Alan Sutton, p. 12.

（7） Betty, J. H (1989), *Bristol Observed: Visitor's Impressions of the City from Domesday to The Bliz,* Redcliffe, p. 61.

（8） George, E & S (2002), *Bristol Probate Inventories Part1: 1542-1650*, Bristol Record Society's Publication Vol. 54. George, E & S with the assistance of P. Fleming (2005), *Bristol Probate Inventories: 1657-1689,* Vol. 57. George, E & S with the assistance of

ストルで残存する遺産目録がほぼ全時期にわたって編纂されており，非常に優れた遺産目録集の一つである。ただ，この目録集は編者が述べるように代表性のある標本（representative sample）330例を抽出しており，その期間のすべての遺産目録を収録しているわけではない。したがって，職業別や階層別の分析によって一定の傾向を見ることはできたとしても，教区別，市街と郊外の比較，時代ごとにブリストル全体の傾向や遺産目録の推移を見る史料として，これのみを用いるのはいささか不十分である。そこで本稿では，同じくＥ＆Ｓ・ジョージが編纂したブリストル司教管区（Diocese）内ブリストル大執事（副司教）管区（Archdeaconry）におけるブリストル執事管区（Deanery）の教区（Parish）・地区（Ward）・地域（Area）の全遺産目録7169例の索引を用いる。(9) これはナショナル・アーカイブスや他の地方の記録協会で使用されている索引文庫（Index Library）に準じるものとして，BRO で公式の検認遺産目録の索引として使用されていることを現地の史料調査の際に確認した。含まれる情報としては，死亡年，氏名，教区または地域，職業または階層，遺産目録の総額，注記が含まれ，氏名はアルファベット順に整理されている。

本稿では，このインデックスをブリストル市周辺ならびにグロスタシャー地域における遺産目録研究の起点として，以下のように整理・検討する。まず，ブリストルに残存する検認遺産目録の年度別と職業別の残存数を整理する。これにより，イギリスに残存する検認遺産目録の総数が確定していない研究状況で年代別の残存傾向を明確にし，またどのような職業の遺産目録がブリストル地域周辺に多いのかを検討する。次に主要な業種の遺産目録を抽出して，ブリストル地域における商業活動の傾向をブリストルの教区地図を用いて把握する。それらによって，ブリストルにおける商工業の地域的展開と消費の実態を検討する起点としたい。

P. Fleming (2008), *Bristol Probate Inventories Part III: 1690-1804,* Vol. 60.

（9） George, E & S (1988), *Guide to The Probate Inventories of the Bristol Deanery of the Diocese of Bristol 1542-1804*, Bristol Record Society.

2　検認遺産目録を用いたブリストル商工業の分析

（1）ブリストル執事管区における検認遺産目録の残存数と特徴

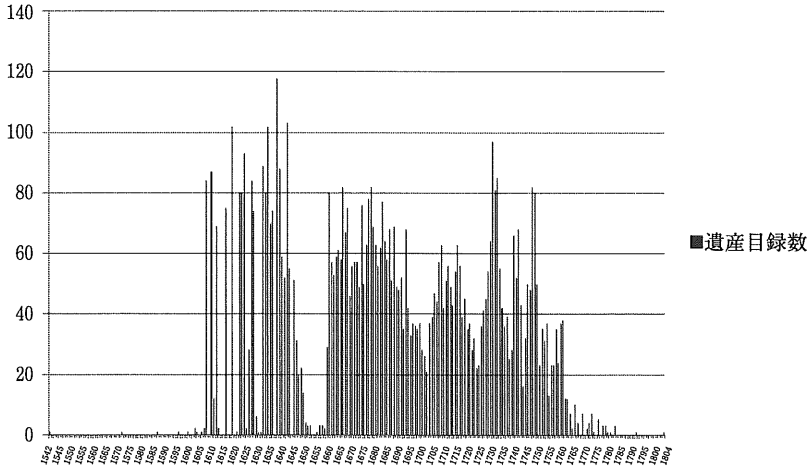
各記録協会の努力によって多くの遺産目録集が刊行されているものの，現存する遺産目録の多くは未整理のままで，明確な実態はいまだ不明な点が多い。たとえば，イギリス全土の遺産目録の残存数やその詳細については，Economic and Social Research Council（ESRC）の助成を受けたM・オバートンを中心とするエクスター大学のプロジェクトをはじめさまざまな計画がある。[(10)] しかし総数を特定するのは困難で，いまだ確定的な見解はだされていない。これまでイギリスの地域史研究において，検認遺産目録を含む教会記録は，M・スパフォドやオバートンらによって用いられている。また，検認記録の残存数に関しては，高橋基泰による遺言書の詳細な研究がある。それらによれば，イングランドにおける14世紀から18世紀末までの遺言書の確認可能な総数は85万件であり，1550年から1570年台と1650年代から1670年代にかけて2度の増加期があったことが分かっている。[(11)] それぞれの研究によって若干の増減はあるものの，検認記録として，遺言書約200万件，遺産目録約100万件，検認会計簿約3万件と推計されている。総数が特定されていない現状では，各地域の遺産目録を分析する際，まず残存状況を整理する事が重要と思われる。そこで図1として，BROに残されているブリストル執事管区の全遺産目録を年度別に整理した。

ブリストル執事管区で現存する最古の遺産目録は1542年の1例で，その後1573年まで見受けられないものの1600年代より増加し始め，1630年代に1度目のピークを迎える。しかし1638年には0例となり，翌1639年には103例に急増するなど増減が激しい。その後1645年には再び0例となり，総数は50年代まで

(10)　Overton, M., Whittle, J., Dean, D., Hann, A (2004), *Production and Consumption in English Households, 1600-1750*, Routledge, xii.

(11)　高橋基泰『村の相伝［近代英国編］――親族構造・相続慣行・世代継承――』刀水書房，1999年，pp. 81-84.

図1　ブリストル執事管区の検認遺産目録の年度別残存数



出典：George and George, Guide to the Probate Inventories of the Bristol Deanery, xx, pp. 271-288.

低迷している。この時期に激減する理由としては，清教徒革命による大内乱期に，カンタベリ大司教区裁判所（Prerogative Court of Canterbury）のみで検認記録が作成されたためと考えられる。[12] それは検認遺産目録に関する法令がジェームズ1世治世第7年（1609年）からチャールズ2世治世第22，23年 c. 10（1670年）まで出されていないことからも窺える。[13]

その後，次第に増加し，1730年代から1750年代にかけて2度目の増大期を迎え，最後に記録された遺産目録は1804年の1例である。検認記録は，正確に作成された場合，遺言書・遺産目録・会計簿が一組であると言われている。その会計簿の残存数を照らし合わせてみるとピークは17世紀後半で，大内乱期に激減するのを除けば大きく異なっている。[14] またブリストルの検認遺産目録作成は，

(12)　Grannum. K., Taylor, N (2009), *Wills & Probate Records: A Guide for Family Historians Second Edition,* The National Archives, p. 40.

(13)　岡部芳彦「イギリス検認遺産目録の法的背景と査定方法」p. 12

(14)　Erickson, A, 'Using Probate Accounts', in Arkell, T., Evans, N., Goose,N., eds (2000), *When Death Do Us Part: Understanding and Interpreting the Probate Records of*

17世紀に突然急増したように見える。同じ検認記録であった遺言書作成の普及時期は議論があるものの15世紀中期から16世紀初頭と言われており[15]，それに比べその増加期は1世紀あまり遅い。これらを合わせて考えれば，イギリスにおける検認遺産目録作成の普及時期は地域によって大きく異なる可能性がある。それを明確にするためには，今後各地域の残存数の比較検討が必要である。

次に表1は，ブリストル執事管区における商工業の検認遺産目録の残存数を職業別に整理したものである。遺産目録研究では，ジェントリや専門職，商人，製造業者，農業従事者等の階層・職業に分類される事が多い。ただその分類もそれぞれの研究によって若干異なり，それぞれの業種がどこに分類されるかで結論が大きく異なる可能性がある[16]。そのため，ここでは敢えて分類せず，研究の起点として各職業別に整理した結果をすべて示した[17]。職業数は251種類と非常に多い。そこからは，一つの商品を作る際に専門の職人による細かい分業体制が窺える。例えば，169番の鞍職人（saddler）と170番の鞍の骨組み職人（saddle-tree maker）が分業されたことや，おそらく石鹸の原料を作った201番の soap-boiler と石鹸を製造・販売したであろう202番の soap-maker などである。

また，この表からはブリストル地域の職業構造の特徴が浮かび上がってくる。

Early Modern England, Leopard's Head Press Ltd, p. 106.

(15) これまでの研究で広く遺産目録が作成される契機は，1529年制定の3つの法令（1529年法）とされることが多い。なぜならヘンリー8治世第21年C.5に遺言の検認の際，教会に支払われる科料の記載がみられるからである。しかし，エドワード3世治世の法令には，遺産目録作成に重要な役割を果たす遺言執行者（executor）や遺産管理人（administrator）の名称が登場し，1529年法以前から遺産目録が広く作成されていたとも考えられる。

(16) 遺産目録が作成された当時でも，とくに農業においてはその判断は難しかった。高橋基泰によれば「自分自身がヨーマンだとした者が実は隣人からはハズバンドマン［零細農も含みうる広範な農民層］とみなされていたり，主観的にはハズバンドマンであっても隣人の客観的な評価では労働者にすぎない場合も多い。」高橋基泰『村の相伝［近代英国編］』pp. 61-67.

(17) ただし，呼称は違うが同業とみなされるものは一つにした。

122番の mariner（船員・海運業）は1675例（23.4%）も残されており，海港都市ブリストルでもっとも多い職業であった。しかし，例えば1657年から1689年までの市街教区の遺産目録集には，サンプル調査とはいえ mariner は111例中3例（2.7%）しか抽出されていない。その理由は以下のように考えられる。J・ムーアや目録の編者E＆S・ジョージによれば，通常 mariner の遺産目録は海軍艦艇（H. M. S）上で，戦闘による海上任務によって死亡したものがほとんどである。[18] それらの書類は出身の地域や教区ではなく，海軍本部（Admiralty）に検認・記録され，戦死者の配偶者等への未払賃金や報奨金の支給に利用された。[19] 記載される情報は，通常死亡者の最後の航海の賃金，艦艇名，指揮官名や艦長名などに限定される。しかし，E＆S・ジョージのブリストル市街教区の検認遺産目録集で抽出された mariner の例には，そのほとんどに詳細な品目が明記されており，中には100ポンドを超える額面の大きなものも見受けられる。このことからブリストルの遺産目録に品目の詳細を残した mariner とは一般の船員・水夫ではなく，船員を雇用した船長や親方クラスの人物であったと考えてよいだろう。このように格差が大きいため，mariner を一つの階層や職業として取り扱うことはできず，その分析には細心の注意が必要である。ただし，その数の大きさと本稿では商工業の地域的展開を主に扱うため，mariner に関しての考察はこれ以上行わない。

（2）各教区の位置と職業別の傾向

次に，ブリストルの検認遺産目録がどの教区に残存しているのかを見てみよ

---

(18) George and George, *Guide of the Probate Inventories of the Bristol Deanery of the Diocese of Bristol,* xii.

(19) Bruno Pappalardo (2003), *Tracing your Naval Ancestors*, The National Archives, p. 171., Grannum. K., Taylor, N., *Wills & Probate Records,* p. 124. ADM（Admiralty の略）の頭文字で整理された文書は「海軍本部検認記録」と呼ばれ National Archives に保存されている。Royal Navy Wills（1786年～1882年）は，軍の記録であるため連続性と高さと内容の正確さが指摘されている。

表1　ブリストル執事管区における商工業の検認遺産目録の職業別残存数

職業名	数	職業名	数	職業名	数	職業名	数
1. ale-draper/ale seller	2	64. corn-factor	1	127. merchant tailor	8	190. ship-carpenter	12
2. anchor-smith	3	65. cow keeper	2	128. miller	13	191. shipwright	82
3. apothecary	7	66. curate	1	129. milliner	6	192. shoemaker	23
4. architector	1	67. currier	4	130. millwright	4	193. shop-keeper	1
5. arms painter	1	68. cutler	9	131. minister/of the gospel	4	194. sieve-maker	2
6. artist (painter に含む)	/	69. distiller	6	132. mould-maker	1	195. silk weaver	4
7. baker	47	70. doctor	2	133. musician	4	196. silversmith	1
8. barber	5	71. doctor of laws	1	134. nailer	6	197. skinner	7
9. barber-surgeon	16	72. draper	3	135. needle maker	1	198. slaughterman	117
10. basket-maker	5	73. dyer	9	136. notary public	1	199. smith	1
11. bay-maker	1	74. embroiderer	1	137. oatmeal-maker	2	200. snuff-grinder	13
12. bell founder	1	75. exciseman	1	138. organist	2	201. soap-boiler	23
13. black smith	49	76. factor	1	139. organ maker	2	202. soap-maker	1
14. block maker	9	77. fan-maker	1	140. painter/artist	7	203. staymaker	2
15. boat man	2	78. farrier	13	141. parchment maker	1	204. stocking-maker	1
16. boatswain	1	79. felt-maker	20	142. parish clerk	4	205. stone-carver	1
17. bodice-maker	3	80. fine-drawer	1	143. parson	1	206. stonemason	1
18. bone-lace weaver	1	81. fisherman	1	144. patten-maker	1	207. strong-water distiller	1
19. book binder	1	82. fishman	1	145. pavier	1	208. stuff-maker	2
20. book seller	1	83. fishmonger	2	146. peruke maker	3	209. sugar-baker	56
21. brass-founder	1	84. fletcher	1	147. pewterer	17	210. surgeon	
22. brazier	7	85. freemason	3	148. physician/practitioner of physic	5	211. tailor	86
23. brass worker	2	86. gallipot maker	2	149. pilot	8	212. tanner	19
24. brewer/jorney-man	33	87. gardener	21	150. pinker	1	213. tallow-chandler	1
25. brickmaker	3	88. glass-bottle maker	1	151. pin-maker/pinner	10	214. tapster	1
26. bridle-cutter	1	89. glass-maker/glassman	5	152. pipemaker	4	215. tea man	1
27. broadweaver	1	90. glazier	16	153. planter	1	216. thatcher	1
28. broker	2	91. glover	10	154. plasterer	1	217. tidesman/waiter	4
29. brush-maker	2	92. goldsmith	9	155. plate-maker	1	218. tiler	19
30. buckle-maker	1	93. grocer	17	156. plumber	3	219. tiller	2
31. butcher	78	94. gunner	1	157. point-maker	2	220. tin-maker/man/tin-plate worker	5

32. butter merchant	1	95. gunsmith	8	158. porter	9	221. tobacco cutter	7
33. button-maker	6	96. haberdasher	16	159. potter	3	222. tobacco dealer	18
34. button-mould maker	1	97. hair-weaver	2	160. presser and packer	1	223. tobacconist	9
35. cabinet-maker	1	98. hatter	7	161. pump-maker	4	224. tobacco-pipe maker	8
36. card maker	1	99. haulier	28	162. quarrier	4	225. tobacco-roller	8
37. carpenter	45	100. hooper	31	163. ranger	1	226. translator	2
38. carrier	1	101. horner	3	164. rector	3	227. trunk-maker	2
39. carver	1	102. horse-driver	6	165. rigger of ships	1	228. tucker	2
40. castor-maker	1	103. hosier	5	166. ropemaker	8	229. turner	8
41. chandler	3	104. hot-presser	1	167. rough-mason	11	230. upholsterer	4
42. chapman	8	105. house-carpenter	24	168. rough-pavier	1	231. vicar	5
43. charcoal maker	1	106. husbandman	214	169. saddler/maker	9	232. victualler	90
44. chaser	1	107. inn-holder/keeper	56	170. saddle-tree maker	1	233. vintner	11
45. cheesemonger	1	108. instrument maker	1	171. sail maker	11	234. virginal maker	2
46. cider merchant	1	109. ironmonger	2	172. sailor/seaman/seafarer	47	235. watch maker	1
47. clerk	17	110. jeweller	1	173. salt-boiler	1	236. water-bailiff	1
48. clockmaker	1	111. joiner	39	174. salter	1	237. water-man	2
49. clothier	18	112. keeper of the gaol of newgate	1	175. salt-maker	3	238. wax-chandler	1
50. cloth-worker	28	113. labourer	15	176. saltpeter-man	2	239. weaver	39
51. coach-harness maker	1	114. lacemaker	1	177. sawyer	3	240. wheelwright	3
52. coach-painter	1	115. latten-plate worker	1	178. sayer	1	241. whitawer	14
53. coal-driver	7	116. lay clerk	1	179. scavenger	2	242. white-smith	1
54. coal-miner	18	117. lighterman	9	180. shoolmaster	9	243. whip-maker	1
55. coffee seller	1	118. lime-burner	6	181. scrivener	3	244. wine-cooper	7
56. collar-maker	1	119. linen-draper	5	182. serge-maker/weaver	6	245. wine-merchant	1
57. collier	1	120. locksmith	2	183. servant	7	246. wire-drawer	7
58. colour-merchant/man	1	121. maltster/maltman	14	184. set-cooper	2	247. wool-carder	1
59. cook	9	122. mariner	1675	185. sexton	1	248. wool-comber	3
60. cooper	141	123. mason	25	186. shag-weaver	1	249. woolen-draper	6
61. cordwainer	84	124. meal man	2	187. sheargrinder	1	250. writing master	1
62. cork-cutter	3	125. mercer	6	188. shearman	24	251. yeoman	519
63. corn-chandler	2	126. merchant	49	189. shepherd	1		

出典：George and George, Guide to the Probate Inventories of the Bristol Deanery, xx, pp. 275-286.

表2　ブリストル執事管区内の検認遺産目録が残存する教区と地域

市街教区・地区	郊外教区・地域
1. All Saints	21. Abbots Leigh
2. Castle Precinct（地区名）	22. Almondsbury
3. Christchurch	23. Alveston
4. St. Augustine	24. Barton Regis（地域名）
5. St. Ewen	25. Clifton
6. St. George（1756年以降）	26. Compton Greenfield
7. St. James	27. Elberton
8. St. John	28. Filton
9. St. Leonard	29. Frenchay
10. St. Mark（地区名）	30. Henbury
11. St. Mary-le-Port	31. Horfield
12. St. Mary, Redcliffe	32. Littleton-on-Severn
13. St. Michael	33. Mangotsfield
14. St. Nicholas	34. Olveston
15. St. Peter	35. St. George, Easton-in-Gordano
16. St. Philip & Jacob	36. Stapleton
17. St. Stephen	37. Stoke Gifford
18. St. Thomas	38. Westbury-on-Trym
19. St. Werburgh	39. Winterbourne
20. Temple	

出典：George and George, Guide to the Probate inventories of the Bristol Deanery, xviii.

う。まず表2は，ブリストル執事管区の教区・地区・地域を市街・郊外にわけアルファベット順に並べ，教区別に番号を振ったものである。1から20までが市街教区・地区，21から39が郊外教区・地域である。つぎにそれらの位置関係を見てみよう。図2はブリストル市街教区の境界と配置を示したものである。一般的に教区と境界は時代によって若干異なる場合があり，新しい教区が設立されることもあれば，統廃合されることもある。今回は教区別の分析となるため，主要な対象時期である17，18世紀の教区の境界が分かる地図を探したが見つからなかった。そこでBROが編纂した16世紀の教区図，1900年版の教区図をもとに今回の対象時期に一番近い18世紀末（1794年）にW. Mathewsが出版したブリストルの地図に，円で囲った表2の教区番号を振りその境界を示し

た。この Mathews の地図の左下にはブリストルの教会と主要な建物が注記されているため，16世紀と19世紀末の地図と照合したところ，ほとんどが一致した。教区の境界は16世紀を中心に，18世紀以降に出来た教区は19世紀の地図を参照して，図2を完成させた。10. St. Mark については，16世紀，19世紀の地図にも掲載されていなかったため教区ではなかったとも考えられる。ただし，遺産目録が数は多くないものの残存するので，地図下方の注記をみたところ，4. St. Augustine 教区内に St. Mark 教会が所在しているのでその周辺と推定し破線で示した。つづいて図3は，BRO で J・C・Jefferies が1991年に作成した南グロスタシャー・北サマセットの教区地図（1830年頃）に，表2で示したブリストルの遺産目録が残存する郊外教区・地域を太線で囲い，四角で囲った教区番号を振ったものである。地図中央の下方には市街教区（City Parishes）があり，図2，3を合わせて見ることにより遺産目録が残存するブリストル執事管区内の教区の境界と配置を確認できる。まず気がつくのは，中心にある市街教区の中に20もの教区があるのに対して，郊外の各19教区・地域の多くが非常に大きく市街までは距離が隔たっている事である。また1497年にキャボット父子がアメリカ大陸に向けて出発し，[21] 17，18世紀には奴隷貿易で栄えた海港都市ブリストルの市街からブリストル海峡に向かうには，Clifton, Abbots Leigh, Henbury と3つの大きな教区をエイヴォン川に沿って約11 km ほど西進しなければならないこともわかる。

ブリストルの教区の位置関係が明確になったところで，ブリストル執事管区の主要な商工業者の検認遺産目録数を教区別に整理したのが表3である。主要

(20) 使用したのは以下の地図である。The Ancient Parishes of Bristol, BRO., J. C. Jefferies, South Gloucestershire & North Somerset Parishes 1830 (1991), BRO., Bristol Parish c.1900 (1997), BRO., W. Mathew's, New & Correct Plan of the City and Suburbs of Bristol (1794).

(21) 1497年にブリストルを出港し，ニューファンドランド島へ到達したジョン・キャボット，セバスティアン・キャボット父子は北米においては初めて入植者として知られている。

図2　ブリストル市街教区の境界と配置

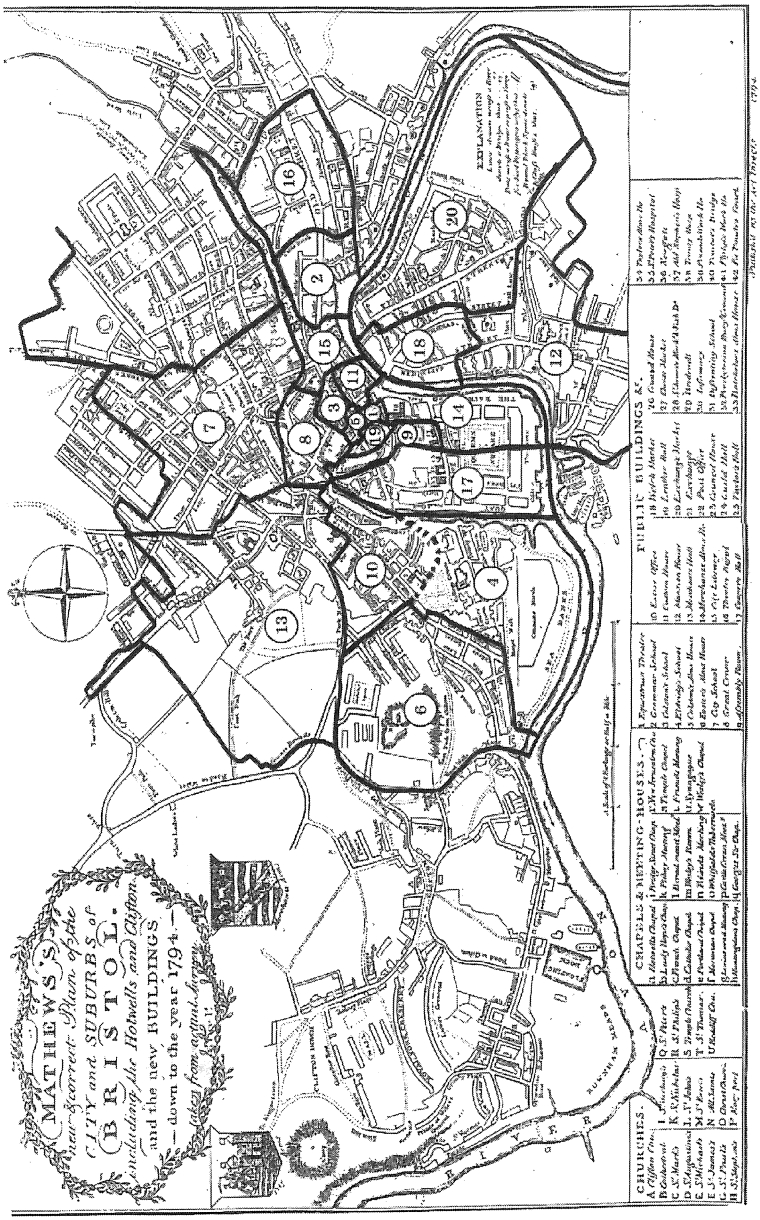
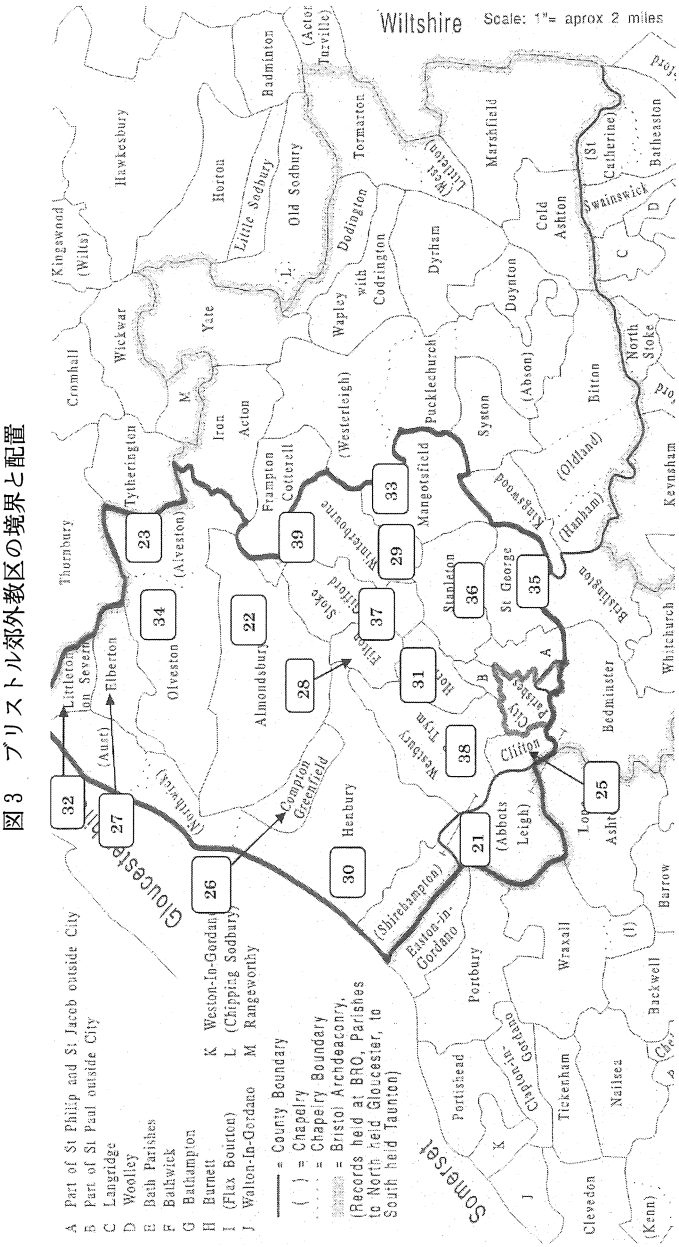


図3　ブリストル郊外教区の境界と配置



職業の選出基準は，表１の職業別残存状況から10例以上残っているものとした。10例以上遺産目録が残っていたのは，40業種，1484例であった。残存状況は市街教区・地区には1230例（82.9%），郊外教区・地域では254例（17.1%）となり，全40業種において市街教区・地区が上回っている。帆布製造業（Sail-maker），船大工（Ship-carpenter），船医（Surgeon）はほぼすべて市街教区に残されており，船舶・海運関係者が集住していたことが窺える。その他，醸造業（Brewer）は１例を除いてすべて市街に残っている。ビール醸造は1525年にイギリスにホップが持ち込まれて以来，19世紀初頭まで一般的に家庭で行われていた。18世紀に書かれたサラ・ハリソンの家事指南書にはワイン，蜂蜜酒，リンゴ酒に加えてエール，ビールの醸造法が記されている。(22) 検認遺産目録の中にも醸造用備品は多く記録されている。(23) 18世紀まで農家や家庭でのビール醸造が行われ，自家生産・消費されていたと考えれば，その業種が成立するのは市街だったと考えられる。40業種の中で市街に存在しないものはないが，ピン製造業や皮革加工業の他に５つの業種が郊外教区には全く見られない。理髪外科医（Barber-surgeon）が市街のみであるのは理解できなくはないが，装蹄師（Farrier）が市街教区のみ（13例）であったのは不自然である。馬が主な移動手段であるなら，市街よりも距離の隔たる郊外教区・地域に多く所在してもよい。ただ鍛冶屋（Blacksmith）が市街に32例（63.4%），郊外に17例（43.6%）残っていることから，郊外では装蹄師は単独の職業ではなく，鍛冶屋が兼業していたと考えられる。

（３）個別職業の分析

本項では，個別職業の検認遺産目録の残存数を教区別に整理することにより，それぞれの商品の消費場所の大まかな傾向を検討してみたい。

まず，表３のブリストル執事管区の40業種の商工業者の中から４つを選出し

(22) M・ハリソン『台所の文化史』小林祐子訳，法政大学出版局，1993年，p. 171.
(23) Weatherill, *Consumer Behaviour & Material Culture in Britain 1660-1760*, p. 128.

表3　ブリストル執事管区内の主要な商工業の検認遺産目録数

職業名	遺産目録数（市街教区・地区）	遺産目録数（郊外教区・地域）	職業名	遺産目録数（市街教区・地区）	遺産目録数（郊外教区・地域）
Baker	44	3	Maltster	12	2
Barber-surgeon	16	0	Mason	19	6
Blacksmith	32	17	Merchant	46	3
Butcher	66	12	Pewterer	16	1
Brewer	32	1	Pin-maker	10	0
Carpenter	25	20	Saddler	10	1
Clothier	15	3	Sail-maker	11	0
Cooper	136	5	Shearman	21	3
Cordwainer	63	21	Ship-carpenter	11	1
Farrier	13	0	Shipwright	69	13
Felt-maker	16	4	Shoe-maker	17	6
Gardener	16	5	Soap-boiler	13	0
Glazier	15	1	Soap-maker	22	1
Grocer	14	3	Surgeon	54	2
Haberdasher	14	2	Tailor	60	26
Haulier	15	13	Tanner	14	5
Hooper	30	1	Tiler	18	1
House-carpenter	24	0	Victualler	80	10
Inn-holder	43	13	Weaver	29	10
Joiner	39	0	Whitawer	14	0

出典：George and George, Guide to the Probate Inventories of the Bristol Deanery, xx, pp. 275-286 より作成.

た。選出方法は，まず50例以上残っている遺産目録を調べたところ7業種であった。その中から日常の消費生活全般をみるため，衣食住に関する業種を選ぶことにした。ただし，住居に関する職業は判別がつきにくいので今回は選出を見送り，精肉業（Butcher：食），仕立・衣類販売業（Tailor：衣），そしてもっとも数が多い樽製造業（Cooper）を選んだ。くわえて，海港都市ブリストル特有の職業として船舶・海運関係の2業種から，今回は残存数が多い船大工（Shipwright：造船）を4業種目に加えた。(24) なお，ギルド制の時代から大内乱

(24)　なお，遺産目録の中には 'City of Bristol' とのみ記載されているものがあり，市街であることは分かるが，教区が特定できないので表4から7では除外した。例えば表3には Butcher が78例あるものの表4では47例となっているのはそのためである。

表4　精肉業（Butcher）の教区別遺産目録数

市街教区・地区	数	郊外教区・地域	数
1. All Saints	0	21. Abbots Leigh	0
2. Castle Precinct（地区名）	0	22. Almondsbury	0
3. Christchurch	0	23. Alveston	0
4. St. Augustine	0	24. Barton Regis（地域名）	1
5. St. Ewen	0	25. Clifton	0
6. St. George	0	26. Compton Greenfield	0
7. St. James	0	27. Elberton	0
8. St. John	0	28. Filton	0
9. St. Leonard	0	29. Frenchay	0
10. St. Mark（地区名）	0	30. Henbury	1
11. St. Mary-le-Port	9	31. Horfield	0
12. St. Mary, Redcliffe	0	32. Littleton-on-Severn	0
13. St. Michael	0	33. Mangotsfield	0
14. St. Nicholas	8	34. Olveston	1
15. St. Peter	5	35. St. George, Easton-in-Gordano	0
16. St. Philip & Jacob	10	36. Stapleton	0
17. St. Stephen	0	37. Stoke Gifford	0
18. St. Thomas	8	38. Westbury-on-Trym	3
19. St. Werburgh	0	39. Winterbourne	1
20. Temple	0		
総計	40		7

出典：George and George, Guide to the Probate Inventories of the Bristol Deanery より作成.

を経て産業革命初期までの15世紀から18世紀の初頭までを，一括して整理するのは若干問題が残るが，年代別の検討は今後の研究課題とし，本稿ではまず消費場所の傾向を見ることを優先した。

まず精肉業であるが，表4で示したように郊外教区・地域に7例（14.9%）しか残っていないのに対して，市街教区・地区には40例（85.1%）が残っている。精肉業は郊外教区では残存数は多くはなく，市街教区別に見ると20教区中5教区に集中していることから，これらの教区に食肉のマーケットがあったことが分かる。B・ロリノーによれば「家畜の屠殺から臓物商への販売まで，本格的な生産の一体化」が行われた業種でもあった。[25] そのため，肉食が中心であ

った時期を通じて，肉屋とその関連業者は近隣に隣接して集住していた。屠殺に関して，地元の役所が監督していたことやギルドの影響も，精肉業が集まっていた背景にあったと考えられる。

最も多い10例の遺産目録が残る 16. St. Philip & Jacob 教区はブリストル市の西端であり，日々の食卓に必要な食肉などのマーケットは1教区だけではなく，ある程度分散していたことが窺える。西から 15. St. Peter（5例），11. St. Mary-le-Port（9例），18. St. Thomas（8例）各教区は，エイヴォン川を隔てていることを除けば隣接している。また3教区ともにブリストル市の中心であり，食肉の消費地がそこにあったことが分かる。8例が残る 14. St. Nicholas 教区も中心の3教区と隣接しているが，これについては他の要因も考えられるので，あとで樽製造業と併せて解釈したい。

つぎに仕立・衣類販売業（Tailor）である。表5に示したように，この業種は，精肉業とは異なり，市街教区・地区が33例（56.9%），郊外教区・地域が25例（43.1%）と遺産目録の残存の割合は大きく違わない。このことからもビール醸造業や精肉業のような自家生産・消費が可能な業種と異なり，家庭で製造しにくい製品を扱う業種は，市街・郊外教区に関係なく展開していたことがわかる。また，その場合，Tailor が扱った商品は，家庭で製造できる簡素な衣類以外の注文品や高級品であったとも考えられる。

教区別に見てみると，市街では14の教区・地区，郊外でも8の教区・地域に遺産目録が残っている。市街教区では4例以上遺産目録が残っていた教区はなかった。このことから，仕立・衣類販売業は，精肉業に比べてマーケットなどに集中しておらず単一の商店が点在していたと思われる。郊外教区・地域においてもブリストル執事管区内のもっとも東に位置する 30. Henbury には精肉業が1例だったのに対して，11例が残されている。また，22. Almondsbury（4例），33. Mangotsfield（2例），34. Olveston（2例）など市街から離れた

(25) B・ロリノー『中世ヨーロッパ　食の生活史』吉田春美訳，原書房，2003年，p. 107.

表5　仕立・衣類販売（Tailor）の教区別遺産目録数

市街教区・地区	数	郊外教区・地域	数
1. All Saints	0	21. Abbots Leigh	0
2. Castle Precinct（地区名）	1	22. Almondsbury	4
3. Christchurch	4	23. Alveston	0
4. St. Augustine	2	24. Barton Regis（地域名）	2
5. St. Ewen	0	25. Clifton	1
6. St. George	0	26. Compton Greenfield	0
7. St. James	4	27. Elberton	0
8. St. John	4	28. Filton	0
9. St. Leonard	0	29. Frenchay	0
10. St. Mark（地区名）	0	30. Henbury	11
11. St. Mary-le-Port	1	31. Horfield	0
12. St. Mary, Redcliffe	2	32. Littleton-on-Severn	0
13. St. Michael	0	33. Mangotsfield	2
14. St. Nicholas	1	34. Olveston	2
15. St. Peter	1	35. St. George, Easton-in-Gordano	0
16. St. Philip & Jacob	4	36. Stapleton	2
17. St. Stephen	3	37. Stoke Gifford	0
18. St. Thomas	2	38. Westbury-on-Trym	1
19. St. Werburgh	3	39. Winterbourne	0
20. Temple	1		
総計	33		25

出典：George and George, Guide to the Probate Inventories of the Bristol Deanery より作成.

管区の境界に近い教区でも複数例が見られる。

樽製造業（Cooper）を選出した理由は，まず商工業の中で残存数が最も多いからである。くわえて精肉業や仕立・衣類販売など日常生活に必要な職業と，次に取り上げる船大工といったブリストル特有の職業の特徴を併せ持つためでもある。水道が普及する以前，樽は水分を保存するのに日常生活に無くてはならない存在であった。特に航海に際して，飲料水やワインなどの保存に必要不可欠で，海港都市ブリストルでこの業種の数が多いのは自然である。表6に示したように，樽製造業の98.6%，75例が市街で，残りの1.4%，1例のみが郊外に残っている。教区別に見てみると，最も多く残された17. St Stephen と

表6　樽製造（Cooper）の教区別遺産目録数

市街教区・地区	数	郊外教区・地域	数
1. All Saints	1	21. Abbots Leigh	0
2. Castle Precinct（地区名）	0	22. Almondsbury	0
3. Christchurch	1	23. Alveston	1
4. St. Augustine	1	24. Barton Regis（地域名）	0
5. St. Ewen	0	25. Clifton	0
6. St. George	0	26. Compton Greenfield	0
7. St. James	4	27. Elberton	0
8. St. John	6	28. Filton	0
9. St. Leonard	4	29. Frenchay	0
10. St. Mark（地区名）	0	30. Henbury	0
11. St. Mary-le-Port	0	31. Horfield	0
12. St. Mary, Redcliffe	7	32. Littleton-on-Severn	0
13. St. Michael	0	33. Mangotsfield	0
14. St. Nicholas	21	34. Olveston	0
15. St. Peter	3	35. St. George, Easton-in-Gordano	0
16. St. Philip & Jacob	0	36. Stapleton	0
17. St. Stephen	25	37. Stoke Gifford	0
18. St. Thomas	1	38. Westbury-on-Trym	0
19. St. Werburgh	0	39. Winterbourne	0
20. Temple	1		
総計	75		1

出典：George and George, Guide to the Probate Inventories of the Bristol Deanery より作成.

14. St. Nicholas 教区はエイヴォン川沿いに隣接しており，船舶が接岸した4. St. Augustine 教区内の Sea Bank に非常に近い。つまり，接岸した船舶が，次の航海に向けて，多くの樽を補充したと思われる。樽はもっとも必要とされた船舶・海運関係者に購入されたため，市街に集中していたのである。

衣食に関しては，肉屋（精肉業）は生産の一体化という業種の特徴から郊外には見られず市街に集中していた。服屋（仕立・衣類販売）はブリストル執事管区全域に広く分布していたため，服の仕立や購入したければ，教区内かもしくは近くの教区の服屋に出向けばよかった。樽については，郊外の人間が購入したければ，郊外教区に樽屋はほとんど見受けられないので市街まで出かける

必要があり不便であったが，一般家庭での日常生活ではさほど破損せず使用できたと考えられる。それに比べ，長期の航海には水分貯蔵用に多数の樽が必要な上，破損も多かったであろう。14. St. Nicolas 教区には樽製造業のほかに精肉業も 8 例（20%）が残っていることから，船舶・海運業の補給をこれらの教区が担い，それらの商品が多く消費されたことが窺える。この互いに影響がある業種の近隣教区への集中は，流通経路においてシナジー効果があったと思われる。

最後に，海港都市ブリストル特有の職業である船舶・海運関係の中から，船大工（Shipwright）を見てみよう。表 3 には船大工が 2 種類登場しており，もう一方は Ship-carpenter である。両者の明確な違いははっきりとはしないが，Shipwright は現在の Shipbuilder と同義であり主に造船を担う。表 7 に示したとおり，船大工は39例中23例が市街教区の 17. St. Stephen 教区に集中している。この教区には樽製造業も集中しており，このことからもこの教区が，海運関係者の補給や船舶の修理を行う役割を担っていたことがわかる。ここで興味深いのは市街教区・地区と郊外教区・地域の割合である。市街が27例（69.2%）であったのに対して郊外は12例（30.8%）で，郊外の 21. Abbots Leigh 教区には10例が集中している。図 3 では，最も下の実線はカウンティの境界であるとともにエイヴォン川を示しており，この教区はブリストル市街教区に接する 25. Clifton 教区の西隣に位置し，境界は河川に沿っていることがわかる。今回分析の対象とした他の精肉，仕立・衣類販売，樽製造は 1 例も残っていないため，この教区の商工業が補給の役割を担っていたとは考えにくい。しかし，ブリストル海峡からブリストル市街までは，エイヴォン川に沿って約11 km ほどの距離があり，Abbots Leigh 教区はちょうど中間に位置している。また河川の長さはブリストル市街教区の約 5 倍であり，造船や船舶修理の利便性は市街よりも高かったと思われる。それらを考え合わせれば，造船や船舶修理は，ブリストル市街と郊外で分業されていた，あるいは Abbots Leigh 教区が造船業の中心の一つであったと考えられる。

表7　船大工（Shipwright）の教区別遺産目録数

市街教区・地区	数	郊外教区・地域	数
1. All Saints	0	21. Abbots Leigh	10
2. Castle Precinct（地区名）	0	22. Almondsbury	0
3. Christchurch	0	23. Alveston	0
4. St. Augustine	1	24. Barton Regis（地域名）	0
5. St. Ewen	0	25. Clifton	0
6. St. George	0	26. Compton Greenfield	0
7. St. James	0	27. Elberton	0
8. St. John	0	28. Filton	0
9. St. Leonard	1	29. Frenchay	0
10. St. Mark（地区名）	0	30. Henbury	1
11. St. Mary-le-Port	0	31. Horfield	0
12. St. Mary, Redcliffe	1	32. Littleton-on-Severn	0
13. St. Michael	0	33. Mangotsfield	0
14. St. Nicholas	1	34. Olveston	0
15. St. Peter	0	35. St. George, Easton-in-Gordano	1
16. St. Philip & Jacob	0	36. Stapleton	0
17. St. Stephen	23	37. Stoke Gifford	0
18. St. Thomas	0	38. Westbury-on-Trym	0
19. St. Werburgh	0	39. Winterbourne	0
20. Temple	0		
総計	27		12

出典：George and George, Guide to the Probate Inventories of the Bristol Deanery より作成.

3　む す び

本稿では，まずブリストル執事管区の検認目録の残存状況とその特徴を概観した。そして，それらを教区別や職業別に整理し，実際にどこでどのような商品が消費されたかを分析することによって，ブリストルの商工業の地域的展開を見てきた。最後に，これまでの検討で明らかとなった論点を整理し，ブリストルにおける商工業と検認遺産目録の研究の今後の課題と可能性を述べて結びとしたい。

これまで検認遺産目録を用いた消費研究は，L・ウェザリルに代表される職

業や階層別の品目別出現率を分析する手法が取られ，研究されてきた。この方法は，研究対象地域の一定の傾向を見ることは可能である。しかし，検認遺産目録が死後に作成されるため，その中に含まれる品目がいつ，どこで購入されたのかは若干不明瞭である。くわえて故人のライフサイクルすべてが記録されている可能性があり，ストックの史料であるかもしれない遺産目録を用いて，フローである消費を検討するのは，慎重な判断を要する。とくに各地の検認遺産目録をその地域特有の特性を持つ史料と見るか，あるいはそれらは無視して同一の基準で分析するかによって異なった結論が導かれる可能性がある。そのためか多数のサンプルを用いた品目別出現率の分析以外で，イギリスの検認遺産目録を利用した説得性の高い研究は，その後あまり登場していない。その一方，遺産目録集の刊行は毎年のように行われており，その分析が追いついているとは言い難いのが現状である。

そのため，本稿では新しい分析手法として，長期間にわたり継続して残存している検認遺産目録の中から職業，没年，教区の3情報を用いて，商工業の地域的展開を具体的に検討し，かつ空間的把握を試みた。検認遺産目録には品目名をはじめさまざまな情報が含まれるが，この3つに関して遺漏，詐称はほぼないと思われるからである。それに当時の地図などの地理的情報を合わせることによって，どこでどのような商品が購入されたかといった消費の空間的な把握が可能になると考えた。

ブリストル市公文書館に残るブリストル執事管区の全遺産目録7169例の年度別の残存数の傾向は，同じく検認記録である遺言書や会計簿とまったく異なっていた。そのためイギリス全土で100万例が残存すると推定される検認遺産目録の残存状況の分布を知るためには，他の地域の遺産目録の残存状況を比較検討する必要がある。また251種類の職業分類からは，ブリストル執事管区内で一つの商品の製造に多くの業種が介在し，地域内で細分化された社会的分業が広く行われていた様子が窺えた。郊外教区は面積が非常に広かったが，主要な職業の遺産目録は2割に満たず，その大半は市街教区に残っていた。ビールな

どを中心とした醸造業などは，郊外教区では自家生産・消費されていた品目であると考えられ，業種としては市街にしか展開していなかった。

同じく精肉業も郊外教区には多く残っていなかった。また市街の中心に位置する教区に集中してはいるが，市街の端にも多くの精肉業が展開していた。逆に仕立・衣類販売業は，市街だけではなく，郊外にも展開していることから，家庭で製造しにくい品目を扱う業種は，市街・郊外関係なく所在していたと考えてよいだろう。

ブリストルを特徴づける職業の一つと考えてよいのは，樽製造業である。水・ワインなどを貯める樽は日常生活においても必要だが，ブリストル執事管区全域には展開しておらず，市街の中心に集中していた。海港都市ブリストルで最も必要とされた品目の一つであるとともに，その展開地域は船舶の接岸場所に近く，また精肉業も所在していることから，航海の補給場所として一か所に集中していた様子が窺える。帆布製造業，船大工（Ship-carpenter），船医など船舶・海運関係の遺産目録は，ほぼすべて市街教区に残されていた。しかし，造船を専門とする船大工（Shipwright）に関しては市街の中心とエイヴォン川沿いの一郊外教区に集中して見られた。

これらの分析からは，日常生活に必要と思われる品目がかならずしも全域に展開しているわけではなく，また一方で同業種や関連する業種が近隣の教区に集中していたことがわかる。つまり，各業種の地域的展開は，扱われた商品の特徴に基づく一方，例えば船舶・海運関係に見られたように複数の関連業種が近隣教区に集中することによって，商品の流通経路における高いシナジー効果を発揮していたと考えられる。また船大工のように，一地区・地域に集中したほうが効率が良さそうな業種が市街・郊外の教区に分散している場合が見られた。ここからはブリストル海峡から市街までの距離といった地理的な条件から，市街より利便性の高い教区において造船・船舶修理が行われていたことが窺える。

最後に，今後の研究の方向を述べておきたい。本稿では4業種の分析に留ま

ったが，その他の業種の分析を深めたい。それにより，海港都市ブリストルにおける商工業の展開と消費の実態がさらに明確になると思われる。また没年が分かるため，各業種について年代・時期を分けて分析することによって，買物や消費の利便性の向上あるいは低下，また必要とされた品目の変化を見ることが可能である。くわえてブリストル最大の職業であった mariner の実態についての分析も必要となろう。これらについては次の課題としたい。

Regional Development of Commerce and Industry in Bristol

——New Analysis Methods of Probate Inventories in Bristol Deanery——

Yoshihiko Okabe

Current research of consumer society in England by using probate inventories mainly analyzed frequencies of ownership of selected household goods. But this method has slight difficulties if we recognized probate inventories as records of stock through out of their life cycle, not of flow in consumption. On the other hand, many probate inventories have been published from hand written original documents by local record societies and archivists within 2 decades, however, unfortunately analysis are not enough.

This article analyzed by three different source types, name, year and parish of the deceased from 7169 probate inventories of Bristol deanery preserved in Bristol Record Office (BRO). Reason is that there were not much mistaken and false in these three information. And also old original maps of Bristol area help where consumer could buy products and who sold them.

Annual numbers of Bristol probate inventories shows the different distributions from wills and accounts as same probate documents. The Classification of 251occupations is revealed progress of social division of labor in Bristol deanery. The difference between city parishes & wards and rural parishes & area is also interesting. Brewery and butcher were not in rural parishes, but in the city, on the assumption that such products produced and consumed by oneself in rural parishes and area. Other figure is showed by tailor, many inventories are in rural area because cloth is difficult to make by oneself.

One of the most characteristic occupations is cooper. Inventories of cooper are concentrated on the city center, especially parishes near the pier like butcher.

* I thank Mr. John Moore, senior research fellow of The University of Bristol, for her help in practical and personal ways to write this article.

Interesting fact is that some occupations were progress in same or cloth area to get synergy effect, but works for necessities of life were not in whole area. And the other, like shipwright, it is effective by concentration, but it was not. The reason that shipping industry expanded outside of city parishes is assumed by geographic condition and convenience of Bristol.

JEL Classification : N3, N13, P46.

Key word : English economic history, probate inventories, the history of retailing and consumption.